

Industrial Catalyst News

触媒学会工業触媒研究会

環境・エネルギー触媒世界市場 30 年 42.5%増

触媒市場は、環境浄化、石油精製・石油化学、化学・ファインケミカルの三つに大別される。富士経済は、2030 年の世界市場規模を 17 年比 42.5%増の 4 兆 2,762 億円と推定した。全体市場の約 5 割は環境浄化触媒であり、このなかでも自動車用排ガス触媒の占有率が高く、今後も安定的な成長を見込む。

今回、環境触媒は自動車用排ガス浄化触媒など 11 品目、エネルギー触媒は石油化学品や石油製品製造用触媒など 15 品目を対象に市場動向、要求特性、材料などについて現状を調査し、将来を予想した。

1. 環境触媒

環境触媒の世界市場は 2030 年に 17 年比約 4 割増の 2 兆 2,017 億円へ拡大する見込みだ。富士経済の調査報告によると、世界的に進展する排ガス規制強化の動きにともない、従来触媒に加えて高機能な排ガス浄化触媒や新規触媒の需要が増加する見通し。

環境触媒では、主要な自動車排ガス浄化触媒で高機能化された三元触媒、酸化触媒、ガソリン・パティキュレート・フィルター(GPF)、SCR 触媒の需要が伸びている。

とくに SCR 触媒は 2030 年に 17 年比 4 倍となる 5,799 億円へ市場が拡大する見通し。ディーゼル車の尿素 SCR システムはトラック・バスや一部の乗用車に搭載されているが、欧州では特定都市へのディーゼル車乗り入れ禁止措置が取られるため中長期的には需要は縮

小するもよう。一方で、トラック・バスの生産台数はアジアを中心に増えており、建設機械や船舶でもシステム搭載が進むことで全体としての需要増が見込まれている。

2. エネルギー触媒

エネルギー触媒は、アジアや北米での石油化学製品製造用触媒の需要増により、17 年比 45%増の 2 兆 745 億円へ拡大すると見ている。

エネルギー分野では、市場の約半数を占める石油製品・石油化学品製造用触媒の需要がアジアや北米で伸びており、中国では燃料電池用触媒や同改質用触媒の需要も伸びている。今後はエネルギーの多様化にともない天然ガスや石炭、メタノール、水素に関する触媒の需要も増える見通し。

なかでもアンモニア合成用触媒は 30 年に 17 年比 1.5 倍増の 75 億円へ拡大する見通し。現状は肥料用途のアンモニアが需要の中心で、最大の中国市場は成熟しつつあるものの、ロシアやインド、中央・東南アジア、アフリカなどで伸長。また最大のアンモニア輸入国の米国では、シェールガス開発によるプラント新設で需要が増えている。さらに水素の輸送・貯蔵用や CO₂ フリー燃料としてアンモニアを活用する研究や革新的アンモニア合成プロセスとして低温低圧での合成法の開発が盛んに進められており、需要増が期待される。

(化学工業日報 2018.10.26)

(日刊工業新聞 2018.11.16)

文責 日揮触媒化成(株) 藤島 浩